ロックミュージックの社会問題に対する影響力

4 年　おみです。

2019 年 11 月 20 日

●目次

1 概要

2 差別とブルースの関係性

3 人種の枠組みを超えたロックンロール

4 1960 年代、ロックの出現による影響

5 ウッドストックフェスティバル

6 今後の調査課題

7 参考文献

1 概要

本研究の目的はロックにまつわる社会運動やフェスティバル、著名なアーティストやバンド、カウンターカルチャーの若者たちやヒッピーたち（後述）なども例に挙げて、ロックが様々な社会問題（差別、戦争、産業社会化など）に対してどのような働きかけや影響を及ぼしたのかを明らかにすることである。

2 差別とブルースの関係

ブルースを最初に挙げた理由は、黒人差別と深い関係があるのと、後述するロックンロールの前身だからです。ブルースのルーツは1890～1900年にさかのぼる(1)。

黒人の奴隷制度が撤廃されて、自由の身になったが差別と重労働はなくならなかった。しかし一日の終わりに僅かな自由時間ができて、その時間に無くならない差別、それによる憂鬱、本能、明日への希望を歌った。

それが今現在まで続いている「ブルース」である。

ブルースはリズム＆ブルースになる。

2 人種の枠組みを超えたロックンロール

当時の親世代で差別が色濃く残っていた1950年代(1)

ラジオにて白人のDJアラン・フリードが、黒人音楽であるリズム＆ブルースをロックンロールと呼んだ。（人種によって音楽を分けない意味合いを込めて）(3)また、エルヴィス・プレスリー（白人の青年）の登場や、ティーンエイジャーの出現（大人たちの差別の価値観への反抗、自己の感性に忠実な若者)。

これらの出来事により黒人音楽は白人（主にティーンエイジャー）に聞かれるように。次第に黒人と白人の間にある壁は低くなっていった。

エルヴィスが与えた影響は分離政策のジム・クロウ法を押し返し、黒人と白人の間にある壁を低くした点で、「黒人公民権運動」とも連動していた。

4 1960 年代、ロックの出現による影響

※前述した「ロックンロール」とは分けて考える(2)。

ロックとロックンロールの共通意識は機械化により機械が「神」のようになってしまった社会に対する反感や怒り、または移民たちの差別による居場所のないやるせなさを思い切り表現した点である。

「ロックンロール」の怒りとは若者たちが『本能的』に共感できる強烈なビートで表現されたもの。

一方、「ロック」の怒りとは複雑さを増したサウンドと文学的修辞法や心理描写などを携えた歌詞の中で表現されたもので、『理性的』である。

つまりロックはロックンロールの直感レベルの表現を理性レベルに引き上げた

5 ウッドストックフェスティバル

マックス・ヤスガーの農場で行われた「愛」と「平和」をテーマとしたフェスティバル(2)。

初めの開催（3 日間）での来客数は 40 万人。（半数以上は入場料を払わなかったので、事実上無料イベント）(4)

性差別（ゲイやレズビアンに対する）が 1950～60 年に性差別を禁じる法律がなかったので、ゲイやレズという理由だけで逮捕されたり、凄まじい暴力や普通に殺人なども起きていた。それらのひどい事態に若者は反抗する。

ウッドストックフェスティバルの最中に暴力事件などがあったという報告は一度もなかったらしく、驚くほど大規模で平和な祭典だった。

このフェスティバルは差別問題や反戦活動において大きな役割を果たした。

6 今後の調査課題

ロックミュージックが社会問題に対して影響力が強い理由を調べて明確にしたい

7 参考文献

(1) 福屋利信　ロックンロールからロックへ　近代文芸社　2012-06-15

(2) 矢口誠　ウッドストックがやってくる　河出書房新社　2009-8

(3) やんすう https://yansue.exblog.jp/17346621/ 2013-02-21

(4) ロックは演奏で決まる http://rock-cd.info/history/1969woodstock.html 2006-06-04